科目区分：初等教育コース（教職科目）・教育課程及び指導法に関する科目
授業科目名：初等音楽科教育法

初等音楽科教育法

音楽教育講座：楠　俊明

１．授業の目的

音楽教育の歩み、目的、内容、学習材、学びの在り方等について、基礎的な知識を得ることによって、学校教育における音楽科教育の位置づけや意義について理解する。さらに、小学校の音楽の授業を展開するための基礎的な知識・技法を身につける。

２．授業の到達目標

○　音楽教育の意義・目的・内容・学習材・学びの在り方等の基礎的知識を説明できる。
○　音楽科の授業づくりにおける学習材研究を行うことができる。
○　実際に音楽の授業づくりができる。

３．授業の位置づけ

初等音楽科教育法は３回生小サブコースと副免を取るための学生約１６０名の受講生である。多くの学生がこの授業後、附属小学校の教育実習に参加するため、そこで実施される活動ができるように学生に呼びかけて授業を開始した。音楽の実習で行われるのは、主に次の３つの活動である。①～③のことができるようになることを念頭に置きながら、授業を進めた。

①　子どもの前での独唱
②　自分のクラスでの５分間授業
③　音楽の授業参観と音楽の実習授業

①は必ず授業の始まりには全員で合唱させ、よく響く声を考えさせながら、その指導方法を学ばせる。歌うことに楽しさを感じられるように授業を進める。②は必ず全員が５分間授業の事前経験ができるようにグループで企画・実践を行わせ、その方法を考えさせる。伴奏の在り方、歌声や曲の仕上げ方や指導方法を考えさせる。③は学習指導要領や教材研究等の理論学習をもとに、指導案の書き方を理解させる。代表グループに各学年の模擬授業を実践させ、その授業研究を行わせる。授業のスケジュールは次の通りである。

授業１５時間のスケジュール

①　ガイダンス　班分け
②　学習指導要領、指導案、題材
③　小学校での経験から　題材と教材、共通教材
④　授業の作り方（年間計画、構成、材応用）５分間授業
⑤　表現（歌唱、器楽、音楽作り）、鑑賞の内容　５分間授業
⑥　教材研究　５分間授業
⑦～⑫模擬授業（１２回、グループで）
⑬　模擬授業の振り返り　歌の発表会　５分間授業
⑭　試験
⑮　考察、まとめ

４．指導のポイントと実際

全員で授業のはじめに歌う楽曲は、共通教材を筆頭に小学校で歌われている今月の歌、学生の歌唱力を伸ばせるようなバラード等、様々なジャンルの曲を選択した。響く声を指導するために、呼吸方法、声の響かせ方、声帯の在り方等を考えさせながら、曲の歌い方を指導した。特に、子どもたちの前で歌うには自分が子どもに心を開かなければならないことを大切にさせ、仲間に心を開いてたっぷりと歌うことに重点を置いて指導を進めた。初めは恥ずかしがって歌っていた学生も少しずつ心を開くようになり、次第に歌声がしっかりと響くようになっていた。

１６０人全員を教壇に立たせて、一人ずつ指導方法を指導していくことは困難である。そのために、４人グループを作り、グループで５分間授業か３０分の各学年の模擬授業を行わせることにした。１２グループは第１学年～第６学年の模擬授業、残りのグループは５分間授業を実践させることにした。次のよ

うに、グループ編成し、授業計画を立てた。

初等音楽科教育法グループ編成表

番	グループ名	班員（○リーダー）	模擬授業等
1	ﾌﾟﾘﾃｨｸﾘｽﾀﾙﾊｰﾄﾅﾐ	○香西　安在　山内　児玉	５分　４／２５
2	おにぎり	○倉橋　砂坂　越智　左座	４年　６／２０
3	ＲＥＧＯ	○西岡　小坂　山本　中田	５分　７／２５
4	デコポン	○片山　西村　藤井　平松	６年　７／４
5	なつやすみ	○岡　岡田　北國　木村	５分　５／２３
6	わんこ	○犬井　船越　田中　菖蒲	５分　５／９
7	ぱんだ	○安藤　小幡　橋本　福地	１年　５／３１
8	すっぴん	○越智　山本　浦田　横山	５分　５／２３
9	たいみょん	○下里　島川　野口　馬場	５分　５／２３
10	めろんぱん	○中村　敷村　竹村　大野	５分　５／２３
11	Get Up Early	○南條　曽田　仁木　用品	５分　７／１１
12	ＴＯＳＨＩＡＫＩ	○鈴木　平井　矢野　山田	６年　７／４
13	へ音記号	○岩名　佐久間　里見　竹本	４年　６／２０
14	ひまわり組	○義野　相原　今谷　大野	５年　６／２７
15	チーム有馬	○原田　豊田　岩井　大森	５分　７／１１
16	チーム佐川	○佐川　鈴木　小泉　安部	２年　６／６
17	TEAM TANE	○杉原　種村　青野　松本	５分　７／１１
18	オレンジ	○山本　末宗　佐藤　西谷	５分　５／２３
19	るるるの森	○武智　髙橋　川崎　藤原	５分　７／２５
20	じゃがえびせん	○大原　田中　出水　眞鍋	５分　５／１６
21	こんぺいとう	○宮本　鈴木　玉井　井内	５年　６／２７
22	チーム四国	○西岡　藤井　西原　新山	３年　６／１３
23	ＴＯＮＹ	○大内　時本　山野　成田	５分　５／１６
24	ＳＯＳＵ	○宗崎　佐々木　大谷　宇都宮	３年　６／１３
25	めきゃべつ	○髙橋　村上　近藤　宮岡	１年　５／３１
26	しろくま	○松本　渡部　松山　松山	５分　７／１１
27	ひよこ組	○藤谷　松木　元木　應武	５分　７／２５
28	Ｓａｌｔ	○牧　橋本　東地　蒲原	５分　７／１１
29	カンパ	○小畠　荒谷　井上　石塚	５分　５／１６
30	そくわんたん	○平尾　戎　濱本　武田	５分　５／１６
31	ヒルデガルト	○湊　日野　中島　伊藤	５分　７／２５
32	ＳＫＹ　ＴＲＥＥ	○秋山　曽根　正木　山根	５分　７／２５
33	秋山	○井上　松岡　髙橋　青木	２年　６／６
34	♯	○大熊　奥村　桑谷　岡部	５分　４／２５
35	おとうふ	○二宮　秦　道田　矢野	５分　７／２５
36	ＴＴ姉妹	○末川　中村　占部　安高	５分　５／９
37	サンロク	○中田　武井　樽岡　堀畑	５分　５／９
38	キュアホワイト	○中村　鳥井　大野　大政	５分　５／９
39	こやけ！	○秋本　熊野　梅木　福島	５分　５／９
40	kojiki	○舛野　益田　永岡　神信	５分　５／１６

全てのグループに模擬授業及び５分間授業を企画させ、４人で協力して授業を進めるように考えさせた。進行役、伴奏役、歌声役、まとめ役等色々と分担して授業に臨むことができていた。５分間授業では次の項目に重点を置いて指導した。

○　実習では、伴奏も歌も進行も一人で行うため、その対応を考えること。
○　歌わせる→指導する→歌わせるの５分間で表現が変化するよう工夫すること。
○　指導の目標を一つに決めて、５分間で楽しくポイントがわかるように指導すること。

模擬授業では、指導案の書き方を大切にさせるため、その書き方や内容を全ての指導案の指導を次のように行った。

○　題材と目標や教材の関係性
○　３つの指導観の整合性と流れ
○　指導の工夫の書き方
○　展開のアイデアの是非
○　評価の在り方

こうした指導案の修正を促しながら、授業の展開方法や教材選択、子どもを生かす指導の在り方等について考えさせ授業研究を進めた。

特に、12回の模擬授業では授業研究における意見が次第に深まり、指導しようと思っていた内容が回数を重ねるごとに学生から次々と出されるようになった。学生は、よりよい授業の在り方を次第に学んでいけるようになったのである。また、次のような子どもの発達特性も考えさせたため、そのことを大切にしながら授業を企画していくことができていた。

１年生　楽しく身体全体を使って
　　元気いっぱい　歌が大好き
２年生　楽しく少しずつ味わいを表現へ
　　音楽によって何かを表現する
３年生　楽しさの中に美しさを発見
　　音楽とイメージリズムメロディー
４年生　楽しく他者との重なり
　　みんなと歌って重なりを楽しむ
５年生　音楽の面白さ味わいを
　　共通教材の学習が他につながる
６年生　音楽の広がり深まり
　　中学校０年生
　　音楽としての成長を体感

この発達特性を実感させるために、音楽の教科書を全員に持たせて授業を進めた。学生たちは、教科書の楽曲やその内容の在り方を熟慮しながら特性を考えていくことができていた。特に、自分たちが経験した楽曲とそうではない曲、既習教材ではあるがその内容を熟読してより納得した曲、様々なカラー刷りの工夫がある曲等、教科書の多角的な内容を考える材料となったのである。

多くの学生たちは、授業の在り方を学びとることができたようであるが、そのために必要になる技能の修得ができていないことが多かった。ピアノ伴奏の在り方、ピアノを弾きながらの指導方法、歌い方の指導方法、音符の読み方等、この授業だけでは対応することのできないことが多かった。２回生で開講される「初等音楽」の授業との関連をさらに図っていかなければならない。

５．授業アンケート

学生のうち約８割が自分なりのポイントで理解できたとアンケートの回答があった。その一部を記載する。

〇児童にやせるのではなく、児童と一緒に児童の気づきから授業をつくるようにすれば、楽しく面白い授業ができ、技術も自然と身に付くと言うことがよくわかった。
〇子どもを中心とした指導案の書き方が一番身に付いたと思います。音楽科に関しては、まだまだ勉強不足な点が多いため、努力したいと思います。また、多くの模擬授業を実際に受けられたことも貴重な経験になりました。
〇ピアノを演奏しながら、子どもたちの様子を観察し、授業を展開していくことの大切さ、授業にもテンポがあると思った。子どもの声や反応をきいて、それを基に授業を進めていくことの大切さがわかった。子どもに伝えるときのわかりやすい指示出し等をもっと学びたいと思った。
〇この授業で音楽のどんな授業をするべきかという考え方が身に付いた。音楽の授業は楽しいということが大切で、楽しいからこそ子どもはもっとうたいたくなったり、表現したくなったりするのだということを感じた。そして、授業の中心は教師ではなく「子ども」で、子どもの意見を生かして授業することの大切さを学ぶことができた。子どもの前で堂々と授業ができるよう、歌やピアノの力を身に付け、授業する自信を付けていきたい。
〇授業の中で一番身に付いたことは、自分が一番に音楽の授業を楽しむということです。先生の姿勢や感情が全て影響することが小学校だと思います。まずは、自分が楽しむ気持ちを持ち続けたいです。また、もっとピアノをしっかりと弾ける力、子どもを引き寄せられる力を身に付けたいです。
〇中学校の授業よりも、いかに楽しく授業を作るかに重点をおいて考えられるようになった。もちろん、技術的なことも必要だが、児童の興味を引きつける大事さに気付いた。教材ごとのつながりや教材の価値など、教材研究をしっかりとしていきたい。
〇最も身に付いたことは、各学年によって教えなければならないことをどのように工夫して教えることができるか、そのための様々な工夫を考えることだと思う。子どもの反応から授業をつくるという、臨機応変な力を身に付けたいと思う。
〇音楽の導入の仕方が身に付いた。5分間授業を通して子どもたちを引きつける大事さに気付いた。
〇この授業で一番身に付いたことは、授業全体を通して目的意識を大切にすることです。何のためにその活動をする必要があって、それがどう生きてくるのか、子どもにとってどんな意味があるのか考えることがとても大切だと思いました。しかし、目的意識を大切にしようと思っても、音楽的な知識に乏しいので自分のものにできるよう頑張りたいです。
〇強弱、音程、リズム等、音楽を形づくる要素、特徴付ける要素を題材、授業の中で、指導したり構成したりする力が身に付いた思います。模擬授業でこれらの力を考えることができたと思います。
〇音楽はただ教えるのではなく、普段の生活の中から楽しみながら教える必要があると知ることができた。また、その具体的な方法を考えることができたと思う。それを9月の実習で生かしたいと思う。
〇授業で一番身に付いたことは、色々な音楽を聴いたり、歌ったりする中で、それらが子どもたちにどのような力を付けることになるのか意識するようになったことである。これからも色々な音楽に触れ、子どもたちが楽しいと思える授業について考えていきたい。
〇もっと身に付けたいと思ったことは、歌唱指導です。先生が発声についての知識を持っていないと、子どもたちの持っている可能性を引き出すことは難しいなと思いました。自分の課題にたくさん気付いた授業でした。
〇子どもたちが楽しみながら学べるような授業づくりについての知識が身に付いた。しかし、実際に5分間授業をしてみると思うように指示が伝わらず、混乱してしまったため、もっとわかりやすい伝え方について学びたいと感じた。また、ピアノで子どもたちをリードできるよう、その技術も身に付けたいと思った。

前述したように、音楽の授業づくりの理解度は高まったようであるが、それを生かす技術不足を感じており、それらを学んでいきたいと考えている学生が多いことがよくわかった。

６．地域社会を核とした教育と研究のつながり

前期のこの授業を終えて、多くの学生は附属小学校の実習に参加する。学生たちは一人一人が５分間授業を実施し、子どもたちの前で校歌を独唱する。附属の音楽の先生からの情報では、なんとか全員がその活動を成し遂げることができたようである。学生一人一人がこの授業の経験を生かすことができたとい

うことである。

さらに、この授業の学びを生かして実習に臨んだことの現れは実習授業の選択にもあった。多くの学生が音楽の実習授業をとったことである。本年度、音楽を主に卒業研究を予定している学生2名は音楽の授業を必ず行うが、今年はこれまでよりも音楽を卒業研究にしていない学生の音楽実習が多かったのである。

わたくしも、その一部を参観したが、子どもたちの課題意識を大切にしながら授業を展開していた。音楽的な技能は十分満足できるとは言い難いが、指導案をしっかりと仕上げ、子どもの反応を大切にしながら、実習授業を行っていた。子どものたちの表情も良好であった。この「初等音楽科教育法」の学びが大きく関与したことは間違いない。多くの学生に音楽の授業を指導する面白さや楽しさをより体感できるようなこの授業の在り方を工夫していかなければならない。

7．終わりに

本授業では、学習指導要領が目標とする「生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力」について様々な例を挙げて考えさせた。授業だけでなく、音楽室から出ていった音楽の活動が自然で活動的であることが望ましいことも確認した。その学びを学生たちは実践したのである。それは、全校での離任式のことである。各クラスでのお別れ会では毎年それぞれが出し物やお別れの歌等を披露するのであるが、今年、全校での体育館での離任式で学生たちは合唱を披露したのである。

その内容は、学生からのお別れの言葉の後に実習生全員での合唱である。指揮もピアノも自分たちで企画して、感動的な一時をつくり出していた。歌った曲は「友よ」である。多くの学生が目を真っ赤にしながら、子どもたちの前で自分の身体を精一杯使って合唱していた。本当に素敵な歌声であった。